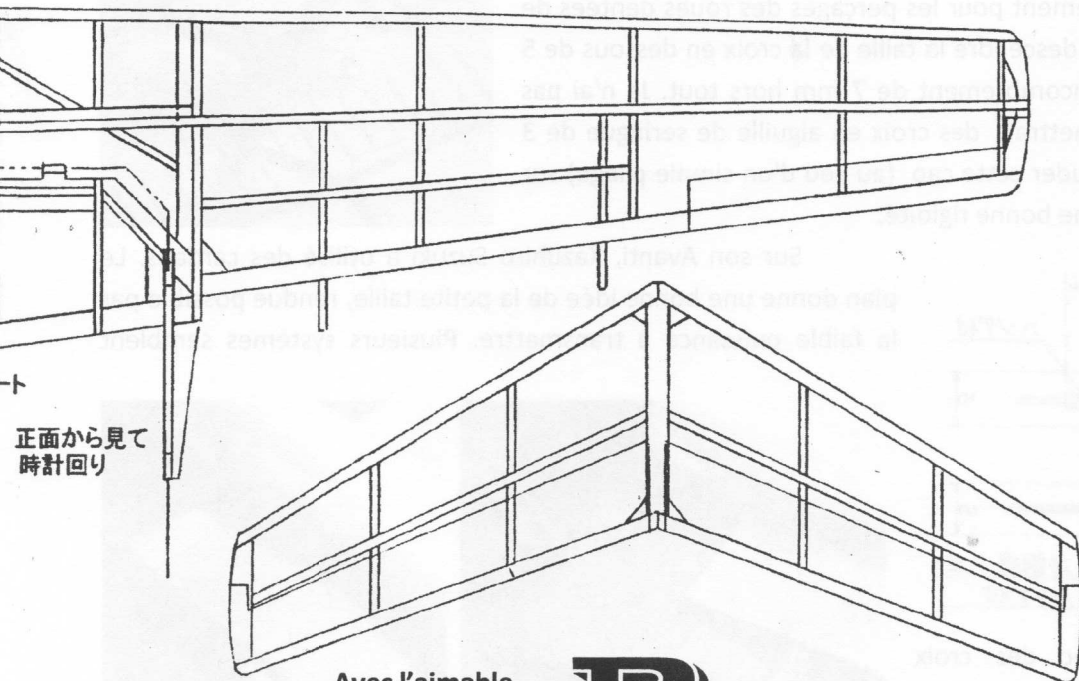


「コの字形」
を
おく

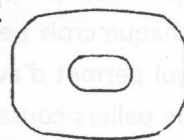
シャフト接続部はハンダで玉を作り、脱脂した後組み込み、アーム
及び軸に糸を巻き付け、シュンカンで固める

真鍮パイプ(φ1.0×3mm)

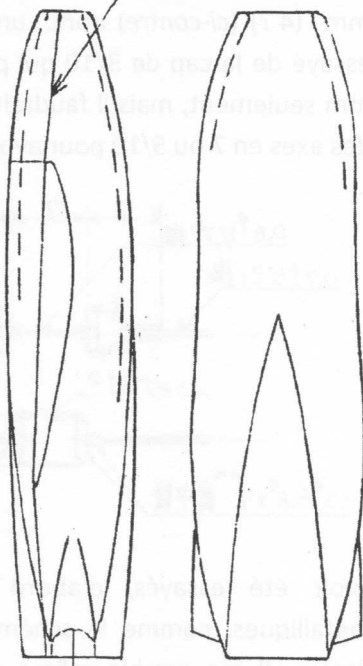
エンジンナセル(発泡PS):整形後、木工
ボンドで翼紙を貼り、カット線で分割。
中身をリユーターでくり抜く



正面から見て
時計回り

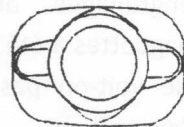


切り込み線

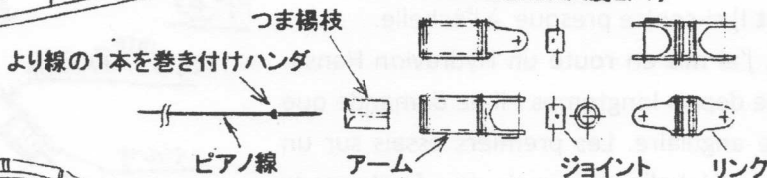


Avec l'aimable
autorisation de

P-tech
Shonai Peanut Technology



ジョイント部詳細(尺度2/1)



つま楊枝

より線の1本を巻き付けハンダ

ピアノ線

アーム

ジョイント

リンク

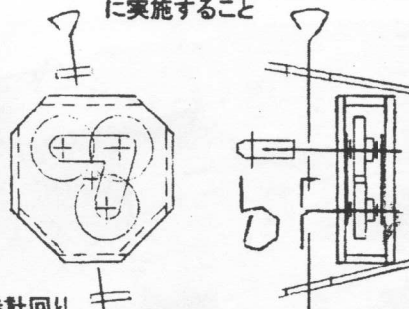
- ・素材は外径φ2.5、肉厚0.5mmのパイプ(釣具屋で「パールトップ管」として入手可)
- ・ジョイントは釣具屋で「手作りパイプキット」のφ1.5を入手(多分塩ビ製)
- ・「パールトップ管」はタテに裂け易いため、糸を巻いて補強が必要



B 視

ギヤボックス

ギヤはタイマー、ゼンマイグッズ等を分解して入手
シャフトランが一番危険であり、回り止め対策を十分に
実施すること



ゴム巻きは正面から見て反時計回り
ゴム掛けはSベンダーとすること

ゴム掛け部下面には覗き穴を設ける事

ストッパーは、ゴム掛けをロックさせる構造とする。
抜く時力が入るので、当該の機体部分は補強が必要

Piaggio P-180 "AVANTI"

Drawing By Kazuhiro Suzuki 2007.9.2